

景観まちづくりかわら版

浦添市景観まちづくり市民会議

発行日:平成19年3月22日発行
発行者:浦添市景観まちづくり事務局
(浦添市都市計画部美らまち推進室)
TEL:876-1234(内線4061~4064)
FAX:879-7138
E-Mail:tyuramachi@8761234.jp

第9号

第9回浦添市景観まちづくり市民会議は、平成19年2月27日(火)に浦添市役所9階で開催され、市民会議の委員17名と市の関係課職員が参加しました。

第9回では、これまでの検討を踏まえ、「目標の姿」と「景観形成基準」取りまとめ、その内容について意見交換を行いました。その主な内容を以下に紹介します。



◎全体的なことについて

- ・これまでの検討内容を踏まえ、整理した今回の資料について、景観条例の条例文として整理されれば、すばらしいものになると思う。
- ・各分野の計画や法との整合性を図ることは重要であり、基準の表現について、議論することは市民会議の役割の1つである。また、事務局は庁内の調整・連携を図る必要もある。
- ・景観計画の策定後、その計画をサポートする協議会等が今後必要ではないか。
- ・新築や建替の場合、届出が必要であるが、リフォームは届出が必要ない。景観計画を反映させるためにも、リフォームも審査等でチェックすることはできないか。

◎骨格別景観まちづくりについて

- ・浦添グスクは世界遺産追加登録を目指すため、その周辺のバッファゾーンとなるエリアを良好な景観に誘導することが重要である。
- ・為朝岩のところは、トゥンジー祭(冬至の日)に久高島の背後から太陽が昇る様子がみえる眺望の良い場所であり、琉球王朝時代からトゥンジーの太陽は崇拝されていた。そういった意味でも為朝岩の場所は重要などころではないか。
- ・浦添グスクの北側の民間墓地は広がり、緑が減少している。景観上、問題である。基準にも示されているが、墓地開発ができないようにするとか、目立たないようにする等、墓地開発を抑制するために、具体的な数値基準を設けてもいいのではないか。また、墓地が拡大しているのはなぜか?
- ・大規模な墓地については、景観条例で基準を設けて縛りをかけることは可能と思うが、個別(個人レベル)の開発は規制・誘導は可能か。
- ・緑の両翼は本市にとって重要である。区画整理事業の範囲で、既存の緑が減少しないような規制、または緑の再生することが重要である。
- ・市内には牧港川、小湾川、シリン川、安謝川が流れているが、1級河川は県が所管し、他市町も流れている。県や近隣市町との協力・連携が必要である。
- ・浦添市内にすることが実感できるように、市花や市木等が繁ったゲート性も必要でないか。
- ・原風景は景観を考える上で重要なことの1つである。浦添グスクや旧集落の昔の写真を見た場合、琉球松が写っている。原風景の創出、琉球松の創出・再現のようなことが位置づけられないか。
- ・緑について、昔の浦添はタブの木が茂っていたと言われている。在来種の緑をつくることを入れてほしい。

◎類型別景観まちづくりについて

- ・市街化調整区域について、自動車解体所のタイヤやゴミの集積が目立ち、景観を阻害している。どうか規制・誘導できないか。
- ・住宅市街地に限らず、伝統集落でも、低・未利用地(空き地等)の屋外駐車場となっている問題がある。駐車場の緑化や目立たないようにする方法が必要である。
.....など